

# 第 1 号議案

## 第 4 期事業報告及び決算の承認について

### 平成 28 年度

平成 28 年 7 月 1 日から平成 29 年 6 月 30 日まで

## 事業報告

### 当該事業年度の末日における事業活動の概況

#### 1 主要な事業活動の報告

##### (1) 総務（会計・経理事務を含む）

決算・上半期、下半期監査の実施、定例・臨時取締役会議の開催、会計事務・月次監査・構成員への支払事務等を定期的に処理しました。

しかし、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の影響により、大津町(特に甚大な被害は内牧・外牧・錦野地区)の各集落も、大きな損害を被り、特に上井手水路が大きな被害を受けたために、本年度は通水中止に追い込まれ受益面積 380ha の水稻作物作付けが不可能となりました。

その結果、平成 28 年度の大豆作付面積が 200ha 以上と大幅に増加しましたが、熊本経済連の農業機械支援等により、集落内・集落間・本社間連携のなか大豆の播種・中耕培土・防除・刈取り作業が順調に進められました。また、平成 28 年度熊本地震産地支援事業並びに営農支援事業により、通常と変わらない経営収支実績となりました。これも、国・県・農業団体組織それぞれ関係各機関の御支援のお蔭であると感謝申し上げます。

その際、地震により被災した外牧地区コンバイン 1 台、本社地下水ボーリング調整工事を被災農業者向け経営体育成事業により更新することができました。

ネットワーク大津株式会社は、いざ有事の時に実力を発揮する会社です。通常と変わらない構成員所得の最大化に向け実績を残す事が出来ました。

平成 28 年度は、米、麦、大豆、飼料米の合計販売金額(品代)は、92 百万円で、受け入れた交付金等は、445 百万円です。これらを原資に肥料、農薬、カントリー・コンバイン利用料等の生産費を控除し、圃場から生み出された収益の全額を作業委託管理料や農作業賃金等として総構成員配分額 320 百万円をお返しすることができました。

これに対し、役員報酬、職員の賃金、各オペレーターの保険料、集落運営費等の一般管理費については、本社が利用権を設定し経営する農地からの収益や、統合により生じる消費税の還付等の雑収益で賄うことができました。

決算では、利益の中から、将来の設備投資に備え、無税で積み立てることができる経営基盤強化準備金 3,000 万円を積み増すとともに、各集落の持株会から拠出いただいた資本金に対し、今年度も株主配当を予定しています。職員採用としては、農地管理、受託作業の増加等に伴い 4 年大学新卒採用 1 名を新たに雇用し、2,000 筆に及ぶ農地及び取引に関するデータ管理に対応できる体制強化を図りました。

## (2) 運営

取締役、各班長(栽培・作付・労務・機械)を中心とし、各集落単位での運営を基本とし、集落間連携及び集落本社間連携を図りながら定期諮問会議(班長会議)並びに定期取締役会を執り行い、目前の課題や、中長期的な経営ビジョンを検討審議し、効率的な運営体制に取り組んできました。

食育体験としては、地域の園児・児童による麦ふみフェスティバル・田植え・稲刈り体験会を実施しました。幼稚園・保育園・小学校の関係者より御礼のお手紙等を頂き、毎年の恒例行事となってきました。この麦ふみフェスティバル・稲刈り体験会の時には、女性部会の皆様の多大なご尽力のお陰もあり、無事に執り行うことが出来ました。

## (3) 作付・栽培・実証研究

平成 28 年度作付実績は、小麦 131.3ha、大麦 115.2ha、大豆 201.4ha、主食用米 11.8ha、飼料用米 18.8ha、WC S 30.3ha となりました。

平成 29 年度作付計画書は、小麦 129.7ha、大麦 115.5ha、大豆 138.8ha、主食用米 14.9ha、飼料用米 39.5ha、WC S 74.9ha、飼料作物 13.2ha の計画で進めています。大豆に関しては、水路の復旧も進み震災前のブロックローテーション体制に戻しました。飼料用米は全量 SGS 向けとし、多収性品種「夢あおば」を中心とした作付体制とし SGS 生産量 400t を計画しています。

## [実証試験研究]

### 1. 麦間直播試験

昨年度は不発芽が多く目立ち、試験継続が困難となった為中止となりました。しかし単年では収量のデータ収集を分析する事が出来ませんので、今年度も継続する事となりました。

### 2. 高生産性大豆栽培試験(大豆収量向上のため。振興局・JA)

昨年度は施肥試験を行い、従来の肥料に代わる新しい肥料を使用する事によって坪刈り収量の増収が見られました。今年度は上記に加え、条間雑草の除草試験も同時に行う事となり、継続する事となりました。

### 3. ラクサー除草剤散布試験(大豆播種直後に散布。JA・日産化学)

昨年度試験を行った結果、予想以上の効果が確認できました。今年度より社内管理地全てで使用を開始しており試験は終了となりました。

### 4. センチピードグラス畦畔実証試験(草刈り作業省力化のため。JA・振興局・だるま製紙所)

試験期間が1年という事で終了となりました。

### 5. 花吹雪液肥剤散布試験(大豆収量向上のため。(株)ファイトクローム・(株)ヒノマル)

2年間試験を行ってきました。その結果2年とも大豆の収量が増収しました。今年度より社内管理地全てで使用を開始しており、試験は終了となりました。

### 6. 革新的技術開発・緊急展開事業(大規模集落営農法人と畜産農家の連携による低コスト飼料供給(SGS及びTMR)の実証研究)

平成28年～平成30年までの継続実証研究。

## (4) 機械・施設と連携

### 1. 平成28年産地パワーアップ事業(事業費20,659,200円)

トラクターリース 1台

育苗ハウス資材購入

機械を導入し耕起代掻き等の移植準備作業の効率化を図るほか、育苗ハウスを設置して計画的な共同育苗を行い、適期移植を図ることで飼料用米の収量向上と生産コストの低減を図り、産地活性化、地域及び地域農業の発展を目指します。

### 2. 平成28年度被災農業者向け経営体育成支援事業(事業費13,757,427円)

コンバイン(4条刈り) 1台

深井戸水中ステンレスポンプ圧力タンク 1台